

(様式1)

令和2年度 学校評価結果報告書(高等学校用)

(1) 学校教育目標	教育基本法に則り、豊かな人間性と人格の形成を図り、有為な社会人、明るくたくましい水産人を育成する。
(2) 現状と課題	県内唯一の水産高校として本県はもとより日本の水産後継者の育成をしている。 水産業界の発展に寄与できるような若手の育成が課題である。
(3) 重点目標	1 学力の充実 2 生徒指導の充実 3 進路指導の充実 4 保護者・地域等との連携の充実 5 強固なチーム八水の確立
(4) 結果の公表	自己評価ならびに外部アンケートの結果も合わせて、本校ホームページ上で公表する。

学校整理番号	51
学校名	八戸水産 高等学校
全日制の課程	本校 校舎
自己評価実施日	令和3年2月3日(水)
学校関係者評価実施日	令和3年2月16日(火)

(9) -イ 学校関係者評価委員会の構成
学校評議員4名、PTA役員1名、本校同窓生2名 計7名

番号	自 己 評 価			(8) 目標の達成度	(9) -ア 学校関係者からの意見・要望・評価等	(10) 次年度への課題と改善策
	(5) 評価項目	(6) 具体的方策	(7) 具体的方策による目標の達成状況			
1	① 基礎基本の徹底 ② 教科「水産」への引き込み ③ 普通教科のプライド ④ 教員の教科力への自信	①学習状況の評価結果に基づく授業改善と主体的・対話的な授業実践。学習到達度に留意した個別指導の実践。 ②普通科目、専門科目別の研究授業を行い、お互いの目標や手法を共有する。 ③生徒を寝かせない授業、生徒が身を乗り出す魅力ある授業の実践。 ④各種講習、朝学習・週末課題の実施、教科科目横断指導。	①主体的・対話的な授業実践に努め、学年末では各クラスの評点平均が70点を上回った。 ②全教職員で年1回研究授業を実施した。また、授業アンケートを各学期に行い授業改善を目指した。 ③一部生徒が授業に集中できない場面があった。生徒の指導を徹底するとともに教員間の連携および指導力の強化に努めた。 ④多くの生徒が職業資格を取得し、マリンマイスターの認定を得た。また朝学習、週末課題を計画的に実施し、基礎学力の定着に努めた。	A	特になし。	・4年制大学への進学希望者に対する進路指導体制を強化する。 ・朝学習を充実させ、また、遅進者の指導体制を強化する。 ・先進的な取り組みについて、学校訪問や研修を通じて見識を深め、全職員の授業力向上に努める。 ・専門教科の課題研究や総合実習の研究授業を実施し、教科「水産」への引き込みの強化を図る。 ・普通科および専門科の横の繋がりを強化して、関連した授業を行うとともに、年間学習指導計画も今後見直していかなければならない。
2	① 挨拶、服装髪型等基本的規範意識の高揚 ② いじめの根絶 ③ 危機管理マニュアルの徹底見直し	①全職員による一斉指導、毎月の服装容儀指導。 ②複数教員による学級経営、生徒面談の実施、保護者との連携。 ③各種訓練の実施による意識の維持高揚。	①年間計画通りに指導した。場面指導の強化と、継続的で統一された指導方針により生徒の意識を高めることに努めた。 ②いじめの根絶に向けた体制をとったが、SNSによるいじめが発生しその対応を継続している。 ③年3回の防災訓練に加えて、各学校施設からの避難訓練を実施し意識の維持高揚を図った。	B	問題行動が増えているのは、コロナ禍の影響でストレスがたまっていることもあると思うが、家庭でも生徒指導面において隠さず前向きに対応する必要がある。	・SNSの取り扱いについての説明会は継続して実施する。家庭における親と子供との会話・関係改善についても、保護者の意識を高める。 ・情報モラル教育についての研修会を設ける。 ・防災訓練の効果をより一層高めるために予告無しの訓練を実施する。 ・クラスや学年毎の指導に差が出ないよう共通理解を持った指導を行う。
3	① 企業、大学等との絆 ② 新規開拓への意欲 ③ 生徒の夢の実現 ④ 面談を通じ、生徒、保護者の心情の理解 ⑤ 将来の八戸水産高校を背負う人材の育成	①企業訪問や懇談会への積極的な参加継続。 ②県内外の企業訪問実施による積極的な情報交換。 ③生徒の進路実現に向けて、確実な出口保証と早期の進路達成。資格取得の推進。 ④四者面談の実施。 ⑤水産系4年制大学への進学促進。	①②積極的な訪問、情報交換を行った。担当した教員からの情報を全職員で共有し、より有効な指導が行える体制作りの強化が必要。 ③就職、進学ともに全員が進路を決定した。また多数の上級資格を取得した。 ④各学科三者面談を実施している。 ⑤水産専門科目の魅力発信を目標として、全教職員で取り組んだ。	B	地域との関わりを深めるため、水産や海洋に関する各種イベントへの積極的な参加が求められている。	・「あおもりっ子キャリア・パスポート」によるポートフォリオ導入に対し、全職員で研修を受けながら対応を進める。 ・4年制大学、公務員試験に向けて情報収集も含め、早期からの進路指導体制を強化する。 ・県内大学進学に対して、マリンマイスター取得の利点を示し、さらに啓発を進める。 ・後援会や同窓会を通して企業との連携を密にする。 ・漁船および商船企業主催の懇談会に積極的に参加する。
4	① 地域との交流、人材の活用 ② 外郭団体との相互理解と密な連携 ③ 学校情報の誠実な発信	①地域イベントやボランティアへの積極的な参加、生徒研究活動の地域展開の模索。 ②進路指導部、渉外部の各種会合への参加。 ③各分掌の通信の発信、学校HPの積極的な活用。	①階上町と官学連携を締結し、町の魚「アブラメ」のブランド化に取り組んだ。 ②各種会合に教職員が多数参加し企業の方達との情報交換を実施した。 ③各分掌の通信を作成し全校に配付。学校HPにもアップした。HPの検索数も増えている。	A	地域連携は学校を挙げて取り組んでいることがわかる。アンケートの回収率を上げるため、実施方法を検討した方が良い。	・コロナ禍で外部と連携を図る多くの機会が失われたが、ホームページや八水だより、広報誌、学年通信等で出来る限り情報発信に努めた。来年度は様々なイベントへの積極的な参加を目指す。 ・学食の保護者利用等、より一層、開かれた学校を目指す。 ・渉外部の各行事に対して、案内状況や実施報告の情報を発信し参加者を増やす。
5	① 寛容で誠意ある相互理解と相互信頼 ② 普通科教員の水産全体への積極的な関わり ③ 地域との協働による高等学校教育改革推進事業に向けた取り組み ④ 学年、分掌、教科等の小チームの結束	①報告・連絡・相談・記録の徹底、挨拶の励行、ハラスメントのない働きやすい職場作りの推進。 ②水産関連事業への指導的関与、教科「水産」の研究授業、教科横断的な組織編成。 ③学科間・普通科の協力。 ④各分掌との共通理解と定期的な情報交換。	①・③・④各分掌における報告・連絡・相談は継続して奨励され、教職員間の協力・連携は良くなっている。 ②八戸高等支援学校の生徒によるヒラメの放流を実施した。校内課題研究発表会に市内関連団体、関連機関から7名の来賓が参加し、生徒の発表を参観した。	A	生徒の唯一の楽しみであるハワイ上陸がコロナウイルスの影響で出来なくなった。ハワイが無理であれば、小笠原諸島または何処かの島などへの上陸を検討してはどうか。	・八戸の水産業に貢献できる活動を推進する。 ・新商品の開発に挑戦する。 ・普通科教員が各学科の実習に積極的に参加する。 ・お互いに仕事内容を理解し協力する気持ちと余裕が必要である。

(11) 総括	主体的・対話的な授業改善、課題研究の充実及び地域に根ざした本校独自の特色ある教育活動を実践できた。生徒自ら課題を発見して解決に結び付ける取組や官学連携、関係機関との連携を通じた取組が生徒の自信や誇りにつながる教育活動を展開していく。
---------	--